『　日本女性会議 2012 仙台　』

報告書

江別市男女共同参画推進連絡協議会　理事　石橋朋子

『日本女性会議 2012 仙台』に参加して

大会は**「きめる・うごく・東北(ここ)から」**というテーマで、10 月 26（金）27（土）の二日間、仙台市の国際センターで、全国から、約 2100 名が参加して開催されました。今回は、東北仙台における 2011.3.11 の東日本大震災の復興において様々な課題を討議するのが目的の会議でした。あまりにも広範囲の災害・復興を妨げる放射能の脅威、内陸部と沿岸部の復興格差の問題、震災後の塩害、泥と瓦礫の処理、風評被害等々、重いテーマでしたが、日本女性会議のあきらめない前向きな姿勢に感動するとともに大変勉強になった大会でした。

開会式は 10 月 26 日、本会場の大ホールからの中継映像で 3 つのホールに分散されて行われました。
大会長　奥山恵美子仙台市長の挨拶は簡潔で要領を得て素晴らしいごあいさつでした。開会基調報告として、佐村知子内閣府男女共同参画局長から
「男女共同参画施策の現状と今後の課題」の講演がありました。

続いて特別プログラム　**「女性たちが語る。3.11～これまでと今と」**

東日本大震災から 1 年半。被災地の女性たちがどのような困難を抱え、どのように立ち上がってきたか、改めて 3.11 から現在までを振り返るお話から始まりました。被災地の女性たちを支えたのも被災した女性たち。そこに生まれたつながりには、困難を希望に変える力があったと、宗片恵美子コーディネーターとパネリスト 5 名の熱い思いが語られました。
被災地の外から見えなかったことがこの講演から知ることもできました。
中でも、パネリストの南三陸ホテル女将阿部憲子さんの講演には、感動しました。
その骨子は

1、震災の状況、2、ライフラインの復旧の遅れ、3、新たな試み、4、町の復興に向けて　震災の風化について「千年に一度」東日本大震災を形容するこの言葉は時にめったに起きないという文脈で語られる、こうした思い込みが当たり前になりかねない。などが、熱く語られました。

震災直後は勿論、今、現在もホテルを被災者の方たちの語らいや、憩の場を提供し復興支援を行っているお話しは、力強く頼もしく、勇気と明るい未来を感じました。

第 2 分科会　　（10 月 27 日）

「困難すごろく」でみる女子の生きづらさ

「こんなんすごろく」とは、生まれてからいろんな場面で女性ゆえに感じた
「困ったこと」や「気が重い」体験。ちょっとつまづいたり、失敗したときに、適切なサポートやケアに出会えないと、どんどん問題が深刻化して、抜け出せなくなっていく・・・
『こんなんすごろく』は、それを可視化するツールです。
わたしの問題はあなたの問題。個人的な思いや経験を共有してつながっていきましょう。
という考えで作られたすごろくです。

江別市役所企画政策部政策調整課のご担当が迅速に手配して下さったお陰で、第一希望の分科会に参加することができました。

第 2 分科会では、浅野富美枝コーデネーター（宮城学院女子大学教授）
講師・ﾊﾟﾈﾘｽﾄ　雨宮処凛（作家・反貧困ﾈｯﾄﾜｰｸ副代表）
ﾊﾟﾈﾘｽﾄ　大塚憲治（障害者就労支援事業所エコライフ　ﾊﾞﾝﾋﾞの杜）
ﾊﾟﾈﾘｽﾄ　門間尚子（おとな女子 3040PROJECT 代表）

雨宮処凛（かりん）氏（作家・反貧困ﾈｯﾄﾜｰｸ副代表）の講演から始まりました。

貧困・非正規雇用・DV など個々の女性の抱える苦しさ、生きづらさは、社会全体の問題です。震災によって深刻になっている「困難」を解きほぐす為には、傷ついた人たちに寄り添う支援と社会の枠組みを変える運動の両方が必要、
女性たちのつながりを通して、それを可能にしていきたい。
というお話しに納得しました。

講師パネリストの雨宮処凛さん（38 歳）は、北海道滝川市出身で、高校卒業後上京、大学受験に失敗、定職につけず、貧困を余儀なくされ、ご自身の多くの体験から、プレカリアート（生活も職も心も不安定に晒される人々）の問題に積極的に取り組み、ﾈｯﾄﾜｰｸを通して、若者たちの支持を得ておられる方です。彼女自身の、多くのつらい体験から、言葉ではなく実践されているお話しを聞き、深く感動しました。

私自身も、地域で自治会や高齢者クラブ活動の中で感ずることは、高齢者が長生きし過ぎて、福祉予算がたりないとか、役立たずは国のお荷物、などの肩身の狭い思いや、消費増税、年金問題など自分たちではどうすることのできないことが沢山ありますが、こうした勉強を通じて少しでも明るい方向に進んでまいりたいと考えました。

雨宮さんの講演、ﾊﾟﾈﾘｽﾄの方の

「生きていることは素晴らしいんです。私の問題はあなたの問題。個人的な思いや経験を共有してつながっていきましょう。」

というお話しに**勇気を頂き**、沢山のことをこの分科会で勉強しました。
学んだことを今後の地域活動に生かして次の世代につながっていくことを願い、努力し行動していきます。

交流会　　（11 月 26 日）

奥州・仙台おもてなし集団「伊達武将隊」の若者たちが出現して会場を盛り上げてくれました。立食ﾊﾟｰﾃｲで多くの方達と知り合い親睦を深めることができました。大会長の奥山仙台市長は人気があり、握手攻め・写真撮影と和やかな会話の輪が広がり、友好を深めました。

閉会式では
来年は、徳島県　阿南市で第 30 回 2013 日本女性会議　が行われるということで、次期開催地の皆さんから多くのパフーマンスがあり、人口 7 万人の
“いきいきわくわく　　小さなまちから新たなるステージ！
106 万都市仙台からバトンタッチされ、幕を閉じました。